別紙「調査結果表」

茨城県畜産センター長　殿

報告者　茨城大学農学部　准教授　小針大助

畜種別チェックシートに基づき、飼養管理状況を確認した結果は以下のとおりです。

適　　不適　　一部不適

（不適、一部不適の場合、改善を要する事項について以下に記載）

各繋養牛の対人反応は良好であり，日常管理状況の良好性が示唆されたが，施設・管理のいくつかの点において改善項目が認められたため一部不適と評価した。詳細は以下の通り。

1．供卵牛舎のタイストールにおいて，糞尿溝のグレーチング間に肢をはめ込んでけがをするリスクが考えられる間隙が数カ所認められた。歪んだグレーチングの修繕ならびに隙間が生じないように詰めて配置すべきである旨指摘した。
2．同牛舎の供卵牛の鼻環の取り扱いについて，農水省の 7 月 26 日指針に基づき，注意すべきことを忠告した。
3．搾乳牛の牛体の汚れについて，暑熱回避のため通路での休息が多くなり，汚れてしまっている旨の報告を受けた。実際，通気ファンの位置が悪く，ベッド側での温熱環境条件は必ずしも良くない。対策として，ベッド利用率の向上が不可欠であるが，ミストだと漏滴によりベッド環境が悪化する可能性もあるためドライフォグなどのベッドエリアへの設置を提案した。

その他については，新指針に基づき，概ね適正に管理されているものと考えられた。